

理解する力		代表的な事業に対する定性的評価		ステップアップ・ワークシート	
事業の名称等		ねらい		学習者の状況	
2023 年度プラザ環境学習講座 		自然、生きもの、ごみ、水、地球温暖化などの環境問題について、体験型の学習講座を通して理解を深め、環境を守るために自分たちに何ができるかを考え、自身の行動につなげてもらう。 学習したことを家族や友達に話すことで、日常生活の中で行う地球にやさしい行動「エコアクション」を広めるきっかけとする。		環境問題について聞いたことはあるけど、詳しくは知らない。 知識はあるが、「エコアクション」にまで結びついていない。 そもそも環境問題について聞いたこともない。	
取組の内容		工夫		学習者の反応	
1 導入 いま地球上でどんな問題が起きているのか、また、何が原因なのかについて伝える。		現実には起きている問題をイメージしやすくするため、写真や映像を使って説明。 身近で考えられる問いかけ（例「朝起きてから今の時間までに何に水を使ったか？」など）やクイズを交えながら、環境問題は身近な問題であることを説明。  見守り  ゆさぶり		「生物が助け合って生きていることが分かりやすかった。」 「ごみの分別の知識が増えた。」 「CO ₂ の問題について知るきっかけになった。」	
2 展開 簡単な実験や工作などを行い、体験を通して環境問題についてより分かりやすく伝える。		環境問題への関心をより高めるため、普段体験できないような内容の実験や工作など、印象に残る体験を提供。 見たり、聴いたり、触ったり、感じたりして体感することで、驚きや発見を生み、環境問題のしくみ（水がなぜ汚れるのか）等をより分かりやすく、自分ごととして捉えられるようサポート。  驚き・感動  本物体験		「さといもの葉がでこぼこしていて、ヨーグルトのカップのふたもぼこぼこしていて、（構造が）同じで面白かった。」 「生態系を小さな水槽の中で作ることができ、面白かった。」	
3 振り返り 学んだことを振り返り、普段の生活の中で自分にできることを考え、発表し、共有する。		身近に多くのエコアクションがあることに気づき、行動する意欲につなげるため、講座で学び、体験したことを振り返り、「わたしたちにできることは何かな？」と問いかけて発言を促し、皆で共有。 家庭や地域へ環境を守る行動「エコアクション」が広まるよう、最後に、「帰ったら、家族や友達に今日学んだことを話してね」と呼びかけ。  共感・納得  成果実感		「間伐の大切さを学んだので、これからも生活の中で間伐材を利用したいと思った。」 「冷蔵庫を整理しようと思った。野菜を腐らせないようにしようと思った。」 「自然が元気になるように、草など生きものを大切にしていきたい。」 「節電について学んだので、お母さんに教えたいと思った。」	
成果指標		学習の効果&主に育まれる力		学習者の変容	
環境問題について理解を深め、環境を守るために自分たちに何ができるかを考え、自身の行動につなげることができたか。 学習したことを家族や友達に話し、日常生活の中で行う地球にやさしい行動「エコアクション」を広めるきっかけとなったか。		環境問題が身近な問題であること、世界中で様々な環境問題が起きており、多くの人や生きものが困っていることを実感しながら、自分たちの生活との関係に思いを巡らすことができた。 		【児童へのアンケート結果より】 ・ビオトープという考え方を知らなかった。それぞれの生きものをしっかり観察してみたい。 【依頼者（教師等）へのアンケート結果より】 ・身のまわりのごみや SDGs について意識して行動する子どもが増えた。 ・汁物の残りなどを残さず食べようとする意識が見られた。 ・早速学んだことを活かしている、まとめている姿が見られた。 「水の出しっぱなしは、環境に悪いぞ！」と声をかけている子がいた。	
成果と課題		成果と課題		成果と課題	
■2023 年度プラザ環境学習講座 ・あいち環境学習プラザにおいて、主に小学生向けに、地球温暖化、生物多様性、水やごみなどの環境問題について、実験や工作を交えた体験型の学習講座を実施。				【成果】 ・環境問題は身近な問題であることを理解してもらい、自分たちにできることを考え、行動に移す意欲を育むことができた。 ・夏休み講座では自然や地球温暖化など、多岐にわたる分野を取り上げ、各分野への理解を深めてもらうことができた。 ・講座の内容を適宜見直し更新することで、学習者の反応やアンケート結果、社会情勢の変化等を講座に反映させることができた。 【課題】 ・今後も講座の内容について社会情勢の変化等に合わせ、更新をしていく必要がある。	